

**テーマ： 9月商業販売統計**

発表日：2005年10月27日（木）

**～小売業販売額は前年比+0.1%と残暑の影響で伸びが鈍化～ (No. J-144)**

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 徳永 香奈

TEL：03-5221-4549

## (要旨)

- 9月の商業販売額は前年比+1.7%の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+2.1%と16ヶ月連続の増加、小売業は同+0.1%とほぼ横這いであった。小売販売額は事前のコンセンサス（中央値：+1.5%、レンジ：+0.6～+2.9%）を大きく下回った。
- 小売業を業種別にみると、燃料小売業（前年比+9.8%）が大きく増加する一方、その他の業種は総じて不調であった。（燃料小売業を除いたベースでは、前年比▲0.8%と6ヶ月ぶりに減少）減少の主な因は、残暑の影響による季節商品の販売伸び悩みや生鮮野菜の価格下落等の天候要因と考えられ、トレンドとしては、底堅い推移が続いていると考えられる。
- 先行きの個人消費を展望すると、雇用・所得環境の改善傾向が個人消費を下支えする構図が継続すると予想される。懸念材料としては、原油価格の上昇による価格転嫁の進捗がマインドや実質購買力低下を通じて、個人消費を押し下げるリスクには注意が必要である。

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			コンビニ販売額		
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	百貨店		スーパー		
									既存店 前年比	既存店 前期比	既存店 前年比	既存店 前期比	
03	7-9月期	▲1.2	▲1.1	▲0.9	▲1.6	▲2.2	▲0.9	▲2.0	▲4.3	▲3.0	▲5.2	▲0.1	▲3.9
	10-12月期	0.0	1.7	0.4	2.6	▲1.2	0.3	▲1.9	▲3.1	▲2.2	▲4.0	2.2	▲1.5
04	1-3月期	0.9	▲0.8	1.1	▲1.2	0.2	0.7	▲0.5	▲2.1	▲0.8	▲2.9	2.2	▲2.1
	4-6月期	1.3	1.7	2.4	2.5	▲1.9	▲1.8	▲1.8	▲3.9	▲2.9	▲4.6	2.1	▲1.4
	7-9月期	3.4	0.9	4.5	1.3	▲0.3	0.4	▲0.9	▲3.5	▲3.2	▲3.6	4.3	1.1
	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲0.5	0.3	▲2.0	▲4.6	▲3.9	▲5.1	2.1	▲1.1
05	1-3月期	2.1	0.0	2.7	▲0.5	0.0	2.3	▲1.5	▲4.1	▲3.2	▲4.8	0.5	▲2.1
	4-6月期	2.7	0.9	2.5	0.9	3.2	0.1	▲0.4	▲2.4	▲0.4	▲3.8	1.9	▲1.5
	7-9月期	2.2	0.4	2.6	1.3	0.8	▲1.9	▲0.8	▲2.4	▲0.1	▲3.9	1.4	▲2.2
	9月	1.8	▲1.5	2.4	▲2.2	▲0.3	0.8	▲0.8	▲3.5	▲4.2	▲3.0	0.6	▲2.1
	10月	0.9	3.0	1.4	3.4	▲0.9	0.1	▲1.6	▲4.2	▲3.5	▲4.7	2.1	▲1.1
	11月	5.7	▲0.6	7.4	▲0.1	0.6	▲0.8	▲2.7	▲5.3	▲5.4	▲5.2	2.1	▲1.3
	12月	2.7	▲0.4	4.0	▲0.5	▲1.0	0.2	▲1.8	▲4.2	▲2.8	▲5.3	2.2	▲0.9
05	1月	3.8	3.8	4.3	3.1	2.4	4.6	1.4	▲1.2	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9
	2月	2.2	▲2.3	3.8	▲1.7	▲2.7	▲2.6	▲4.1	▲6.7	▲7.2	▲6.3	▲1.9	▲2.8
	3月	0.7	▲4.8	0.9	▲6.1	0.3	▲1.2	▲2.5	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5
	4月	3.1	6.9	2.9	8.1	3.8	2.8	▲0.5	▲2.3	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2
	5月	3.1	▲3.5	3.2	▲4.0	2.9	▲1.4	▲0.6	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0
	6月	1.9	1.5	1.6	1.7	3.0	0.0	0.0	▲1.9	0.7	▲3.6	2.2	▲1.4
	7月	0.3	0.7	0.2	2.1	0.6	▲2.2	▲0.4	▲1.7	0.6	▲3.4	▲1.1	▲4.9
	8月	4.6	1.7	5.6	1.4	1.5	1.5	▲1.3	▲3.0	▲1.1	▲4.0	2.0	▲1.4
	9月	1.7	▲3.9	2.1	▲4.6	0.1	▲0.8	▲0.9	▲2.7	0.0	▲4.5	3.5	▲0.3

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

**● 9月の商業販売額は前年比+1.7%（卸売業+2.1%、小売業+0.1%）**

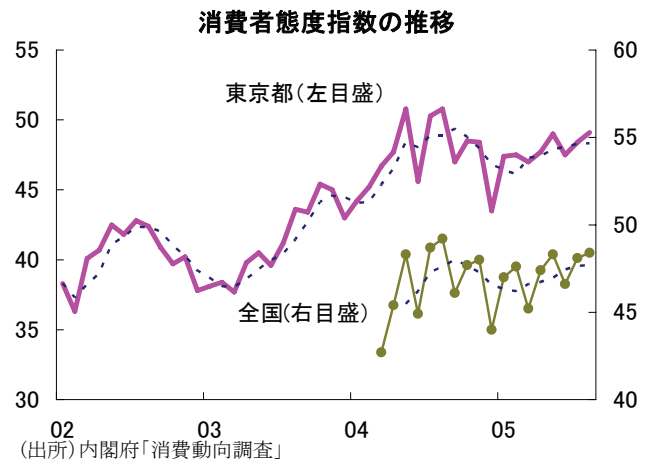
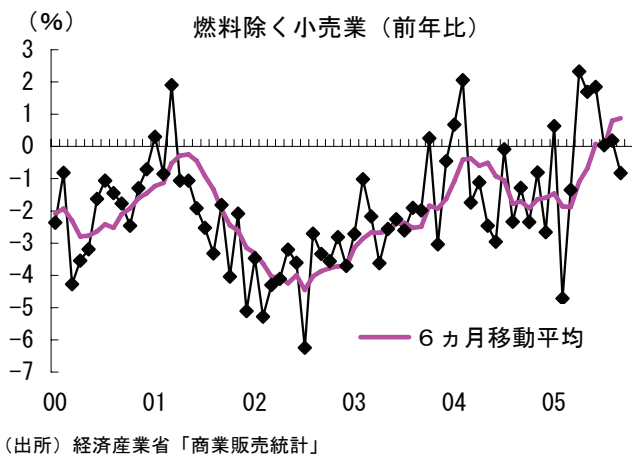
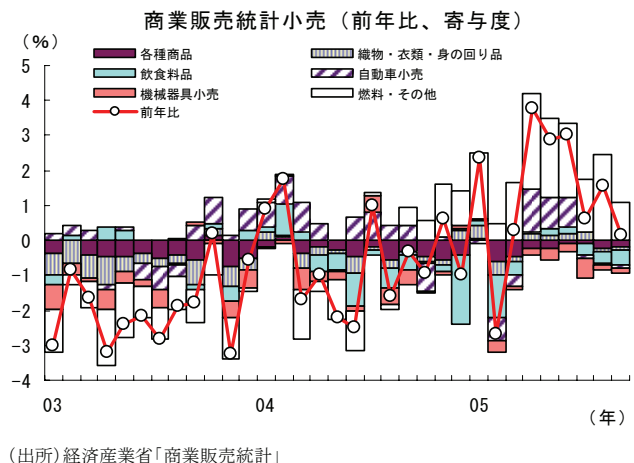
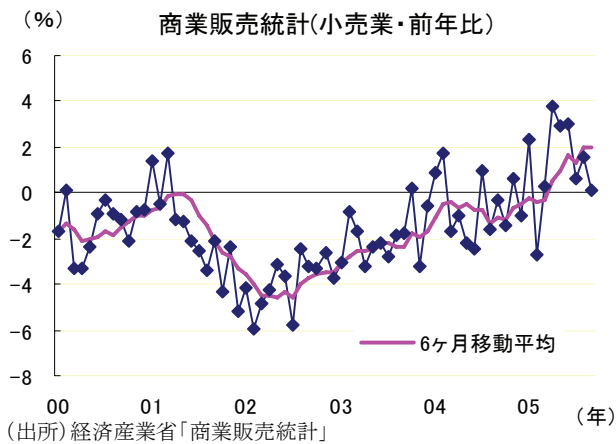
9月の商業販売額は前年比+1.7%の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+2.1%と16ヶ月連続の増加、小売業は同+0.1%とほぼ横這いであった。小売販売額は事前のコンセンサス（中央値：+1.5%、レンジ：+0.6～+2.9%）を大きく下回る結果となった。

また、大型小売店販売額は前年比▲2.7%（既存店）、業態別にみると百貨店販売額が同0.0%と横這い、スーパーは同▲4.5%とマイナス幅が拡大した。

### ●小売業販売額は燃料小売業の押上げが大きく寄与

小売業を業種別にみると、燃料小売業（前年比+9.8%）が増加に寄与した。一方、その他の業種は総じて低調であった。このところ石油製品価格上昇による燃料小売業販売額が全体を押し上げる構図が続いているが、今月は他の業種も軒並み減少したため、燃料小売業を除いたベースでも前月比▲0.8%と6ヶ月ぶりに減少に転じた。

このように今月は芳しくない結果であったが、これを過度に悲観する必要はないだろう。織物・衣料・身の回り品小売業については、残暑が厳しかったことによる秋冬物衣料の伸び悩みがマイナスに寄与した。飲食料品小売業の減少については、生鮮食品の価格下落を受けて名目での販売額が押し下げられたことが影響した。加えて、これまでプラスに寄与していたその他小売業の増加ペースが大きく鈍化したことも小売業販売額の増加を抑えた要因となった。その他小売業には、様々な業種が含まれるが、このところ好調であったのはドラッグストアやホームセンターである。ただし9月は残暑の影響により、季節商品の販売がやや不調だった。このような天候要因等を割り引いて考えれば、実勢としての個人消費は底堅く推移したといえよう。



## ●雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は底堅く推移

7－9月期の小売販売額は前年比+0.8%と、4－6月期の同+3.2%から伸びが大きく鈍化した。また、季節調整済み小売販売額指数で前期比を計算すると、小売販売額は名目ベースで前期比▲2.0%、実質ベースで同▲0.8%といずれもマイナスとなった。これまでの消費関連統計の動きを踏まえると、7－9月期のGDPの個人消費は伸びの鈍化は避けられないとみられる。個人消費の回復基盤に変化が生じたわけではないが、前2四半期の比較的高い伸びの反動が出た形だ。

先行きの個人消費を展望すると、雇用・所得環境の改善傾向とマインドの安定推移が個人消費を下支える構図が継続すると予想される。懸念材料としては、原油価格の上昇による価格転嫁の進捗がマインドや実質購買力低下を通じて、個人消費を押し下げるリスクには注意が必要である。

